

第 20 回教育改革フォーラム 実施報告

— 認証評価を見据えた学習成果の可視化 —

1 概要

2030 年度から導入予定の「新たな認証評価制度」では、学部・学位プログラム単位での「学修成果の可視化」や教育の質保証・向上が強く求められる。これを見据え、本学における学修成果の適切な評価・活用について理解を深めることを目的に、第 20 回教育改革フォーラムを開催した。

当日は京都芸術大学教授の松下佳代氏を講師に迎え、学修成果の直接評価の重要性や、プログラムレベルでの評価手法として注目される PEPA（重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価）の実践事例（他大学や京都芸術大学の取組等）についてご講演いただいた。講演後の質疑応答では、「LMS（学修管理システム）とデジタルポートフォリオの役割分担について」等、具体的な運用面に関する質疑が交わされ、今後の本学の教学マネジメントや教育改善に向けた極めて示唆に富む学びの場となった。

2 開催日時

2026 年 9 月 17 日（木） 15:00～16:30

3 開催方法

対面（名古屋市立大学 滝子キャンパス 1 号館 201 教室）、および オンライン（Zoom）

4 内容

- (1) 挨拶： 学長 大原 弘隆
- (2) 司会進行： 高等教育院 准教授 松尾 美香
- (3) 講演： 京都芸術大学 教授 松下 佳代
- (4) 総括： 副学長・高等教育院長 伊藤 恭彦

5 参加者

119 名（対面 61 名、オンライン 58 名）

【内訳】

区分	対面	オンライン
職員	22 名	10 名
教員	34 名	33 名
他大学	5 名	15 名

6 実施風景

・大原学長 開会挨拶



・松下教授 ご講演の様子



・質疑応答の様子



・伊藤副学長 総括挨拶



7 アンケート結果（一部抜粋）

回答者 57 名（アンケート実施方法 Microsoft Forms にて実施）

【内訳】

区分	人数
職員	13 名
教員	33 名
他大学	11 名

○講演内容を理解できましたか？

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ☐ 理解できた | 84.2% |
| ☐ 理解できなかった | 0.0% |
| ☐ どちらともいえない | 15.8% |

○今後、学生支援を行う上で、参考になりましたか？

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ☐ 参考になった | 87.7% |
| ☐ 参考にならなかった | 1.8% |
| ☐ どちらともいえない | 10.5% |

○次回の教育改革フォーラムにも参加したいと思いますか？

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ☐ そう思う | 91.2% |
| ☐ そう思わない | 1.8% |
| ☐ どちらともいえない | 7.0% |

○本日の講演会についてのご意見・ご感想などを自由にご記入ください。

- ・評価方法を具体化することで、高評価を取ることが目的化してしまう恐れがあると感じた。例えば、教員が学生の成績をつけるときに、「1 年次は成績を辛めにつけて、年次が上がるごとに甘くする」といったテクニックを使い、見かけ上、学生全体が成長しているように見せかけるとか。リサーチルーブリックの達成度を指導教員が判断するときに、指導学生の達成度を甘く判定することで、自身の評価を上げようとするとか。評価結果が学部への資金配分にも影響するとなれば、手段を選ばずに抜け道を探す人間は一定数存在する。公平に評価をするためには、こういった「ズル」に対する具体的な対策が必要だと感じた。
- ・分かりやすい説明で、大学教育の何が問題か分かった。
- ・時代の変化や新しい時代でのやり方を学びたいと思って参加したが、古い考えの紹介に終始しており期待したような学びはなかった。
- ・実際にやるには、全体を統括するファシリテーターのような方がいないと、難しいと感じました。
- ・そもそも認証評価とは何か、過去の受審時の指摘事項や本学の課題を共有したうえで、今回のような教職員が学ぶ機会があるとよい。各学部、研究科で既におこなっている事例を共有するなど、評価の可視化をテーマに継続していただけるとありがたい。
- ・Zoom の画面が、スライド、講師の先生の画面、タイトルラインの画面、と構成されていて、とても見やすかったです。

以上